

ラクビーフットボール

(二)

廣島英雄

英國は一九一四年八月四日の深更獨逸に對して宣戰が布告された。そして其の翌日八月五日には早くも「ラグビー」界に於て最初の行動を見た。即ち「イングランドン」パーク「ラブ」は同日其の「グラウンド」を陸軍に呈供すると共に之の臨機に愛國的處置の主唱者の一人故「テンダル」中尉（同クラブの主將）は宣戰の翌日

認むる能はざるが「ラガー」が最後まで戦地に踏み止まり方に「タイムアップ」まで弓矢の盡くるまで奮闘する事を確信するものである。このことたるや「ゲーム」そのものの教へる所であつて斯くの如き出来事は未だ英國の歴史に見ざる所である。宜なるかな彼等は「ラグビー」に培れた人達である。右の事實は丁度日本

ふ！「ラグビー」に於て最も重ぜられる絶対的な團結心と服従心それは勇者の魂であり社會生活の第一原則である。眞に「ラグビー」に精進して神秘境に到達し得たならば最早や凡ての言葉は無用である。何故ならば「ラグビー」精神の根本義たる人格の完成の基礎が出来上つたからである。

概說

1「グラウンド」平坦なる芝生の地が一番理想である。

ニオン（團體）は其の所屬の「クラブ」に廻狀を發して各「クラブ」の「グラウンド」を陸軍に呈供し同時に會員に募兵に應ずる事を勸誘した。然るに一週間後に於ける廻狀は遲きに失し、各「クラブ」の會員達は既に入營した後で結局その廻狀を持つて廻つた人が最後に取殘された人であつた、彼は空しく各「クラブ」の書類を持ち歸へり其のまゝ皆の後を追つて彼も亦直ちに軍隊に加つて行つた相だ。又「スウエル」氏は國際的「ラゲビーフットボール」の著書の中に次の様に言つてゐる。

「ラガー」達は募兵の發せらるゝや一齊に恰も一人の如く戰地に向つた事は忘るべからざる事である。彼等が速時に其の命に應ぜし事は「キックオフ」の瞬間の「フオワード」の突進の如きもので、現今尙平和の曙光を

(タツチイン ゴール)

(タツチイン)

(タツチライン)

(デッドボールライン)

ゴール

(ゴールライン)

(二十五ヤードライン)

(十ヤードライン)

(ハーフウェーライン)

(フオワード)

(ハーフバック)

(スリークォーター)

(フルバック)

(インゴール)

(イナダ)

に於ける白虎隊の感があり
大和武士の精神と合致して
ゐる點を見え出すではない
か、斃れて後已むの戦闘心
それは生の意識の華であり
將師の意氣である、人事を
盡して天命を待ち戦了つて
光風齊月の悠々として寛な
る心こそ「ラグビー」の教へ

○兩側の「ゴールライン」にはさまれたる「タッチライン」(横の線)の長さは「百十ヤード」にして「ゴールライン」は「七五ヤード」あり。

○この「タッチライン」に平行に點線で「五ヤードライン」が引かれる。

○「ハーフウェイライン」は「グラウンド」を二等分する線なり。

○「十ヤードライン」は「ハーフウェイライン」から「十ヤード」離れて之と平行に引かれたる線なり。

○「二十五ヤードライン」は「ゴールライン」と平行に内側に「廿五ヤード」離れて引かれた線なり。

○「デッドボールライン」は「ゴールライン」から「二十五ヤード」以内離れて外側に引かれた線なり。

○「ゴール」は「ゴールライン」の中央に立てられるものなり。

○「ゴールライン」と「デッドボールライン」の間の地面を「インゴール」又は「ゴールゾーン」と呼びこの地域が所謂敵呼方の陣地なり。

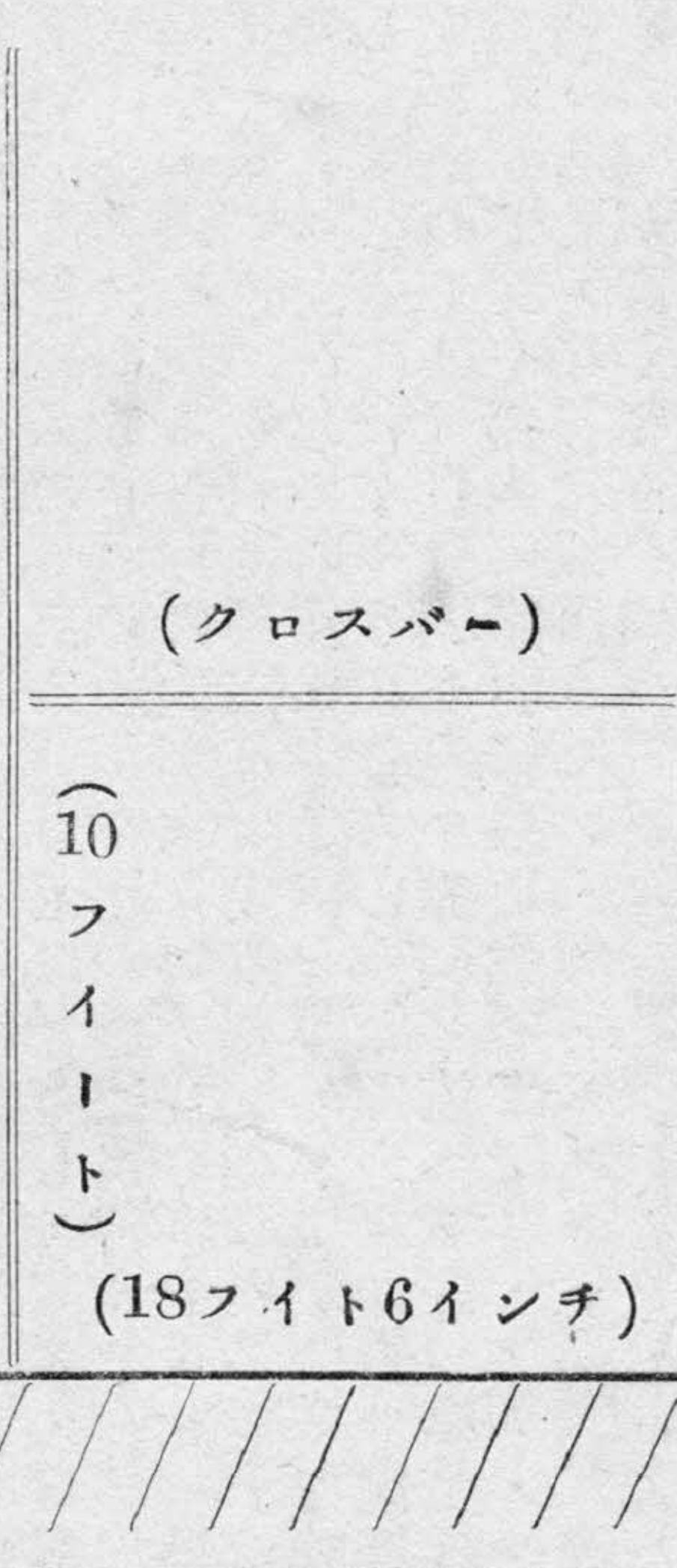
○兩側の「タッチライン」と相方の「ゴールライン」とで圍まれたる地域を「フエヤーグラウンド」と稱す。

○「ゲーム」はこの地域内に於て行はる、其以外に於て行はるべきの「ボール」は「デッド」となり一時中止の状態となつて特別の方法によつて再び「ゲーム」を續行する事になる。

○「タッチライン」の外側を

「タッチ」と云ひ(兩側に在る)「インゴール」の外側の「タッチ」を特に「タッチインゴール」と云ふ

○「ゴールライン」の先端に立てられた「コーナフラッグ」は「タッチインゴール」である



(ゴールポスト)

フォワード=八人

B HalfBack=

ハーフバック=二人

C ThreeQuarterBack=

スリークォーター=四人

D FullBack=

フルバック=一人

5 審判員

「ゴールライン」の中央の地面に垂直に頑丈なる柱を樹立する。この二本の柱を結びつけた横木を「クロスバー」と稱し地表から「十フィート」の高さに置かれる。柱の長さは「クロスバー」の上「一フィート」を下らざる事と定められてあるから「一フィート」以上の長さを持つ「ポスト」は如何に長くとも差支ないのである。

3 「ボール」

長さ:「十一インチ」乃至「十一インチ」四分の一

縦の周囲:「三十インチ」乃至「三十一インチ」

横の周囲:「二十五インチ」乃至「二十六インチ」

重量:「十三オンス」乃至「十四オンス」半

手縫ひで「一インチ」に八針

以上のこと、出来る丈これに近い「ボール」を使用すること。

4 「プレイヤー(競技者)」

A Forward=

最大限競技時間は四十五分の四十五分中五分以内の「ハーフ」を入れて前後二回行ふ(必ず四五分宛でなければならぬと云ふ事はなく兩軍の大將と審判とが合

議の上適宜前以て決定すべきものである)日本内地で行ふ「タイム」は三十五分宛の様であるが尙ほ中學生はそれ以下でなければならぬ

7 競技の目的

敵の「インゴール」に手を以つて「ボール」を地面に附けるか「ボール」を「ゴール」(門)に蹴込むを以つて目的となす、前者を「トライ」と云ひ、競技の最大努力がこの「トライ」せんとするためになされる。

8 「ゲーム」の開始

競技の開始は兩軍の主將に

「キックオフ」か「サイド」を取る場合に風上に「サイド」を取り「キックオフ」を敵に譲るべきである。風の無い場合には太陽の光線は考へ太陽の光線の強い時は其れに面する事を避け太陽を後に受ける「サイド」を選ぶべきである、若し以上配されぬときは「キックオフ」を選ぶべきである。

よつて「トス」(錢を投げ上げて決を採るか又は拳をし)の結果勝つたときには「キックオフ」か「サイド」(陣)か何れかを先選ぶ権利が與へられる「トス」に勝つ「キックオフ」か「サイド」を取る場合に風上に「サイド」を取り「キックオフ」を敵に譲るべきである。風の無い場合には太陽の光線は考へ太陽の光線の強い時は其れに面する事を避け太陽を後に受ける「サイド」を選ぶべきである、若し以上配されぬときは「キックオフ」を選ぶべきである。